

〔巻頭言〕

暑熱対策を進めるためのデータ活用

(全農家畜衛生研究所) 田 中 剛 志

〈はじめに〉

暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

昨年・今年と暑い夏が続き、記録的な暑さとの報道が毎年のように繰り返され、確かにこの暑さは記録的だと実感しております。豚は暑さで調子を崩していないでしょうか。気象庁からは残暑も厳しいとの予報も出されております。防鳥ネットのホコリを落として空気の流れを良くしたり、西日が直接当たらないように遮光ネットを設置したりといった対策は今からでもできると思います。昨年の夏に実施したことなどを思い出して、できる対策を漏れなく実施できているか確認して頂きたいと思います。

来年以降も今年並みに暑い夏が続くのではないかというのが大きな心配事となり、来年の夏に向けて今からでも暑熱対策の準備を進めたいと考えている農場も多いと思います。現状の夏場対策というと屋根を白く塗ったり、母豚に風を当てたり、ファンを回して畜舎内に熱がこもらないようにする、あるいは飼料への夏場対策サプリメントの添加といった対策が挙げられています。巡回させて頂いた農場では、分娩舎でスポットクーラーを活用して温度を下げていました。

夏場対策を効果的に進めるためには温度・湿度といった環境データに基づいた取り組みが不可欠

です。近年大きく進歩していると感じているのが、この環境データを測定する畜舎環境モニタリング技術です。本年春に開催された国際養鶏養豚総合展（IPPS）でもIT技術を活用した畜舎環境のモニタリング方法が複数展示されており、IT技術の進歩で養豚も変わりつつあることを実感しました。業界誌等でも試験的に24時間の畜舎環境モニタリングを開始した農場について紹介されており、注目していきたいと思っています。

〈畜舎環境モニタリングデータの活用〉

畜舎環境については農場長や従業員の方は良く把握されており、各畜舎での課題を十分に認識しているため、わざわざ測定しなくてもとお考えになるかもしれません。ただ、畜舎環境を測定してデータで把握しておくことは、データの解析技術が目覚ましく発展していく中で、今後ますます価値が出てくると思われます。現在でも対策前後での効果検証や農場長と従業員の方の目合わせをする際にはデータ・数値を基にして行われているかと思います。これからは24時間測定した環境データを基にして、咳・肺炎が増えた時の日中と夜間の温度・湿度の推移を過去から振り返ってカーテン管理に応用したり、分娩舎の温度・湿度・風速と母豚の飼料摂取量を解析して母豚へのダクトファンの調整や飼料へのサプリメントの添

加を判断するといったことを、経験に加えてデータも活用して検証する時代になると思います。

〈各種データ解析を行うことの意義〉

本年7月に開催されたSPF豚研究会では、鹿児島大学の伊藤先生が地形データやイノシシの生息密度、道路の有無等の多数のデータを基にしてアフリカ豚熱の日本への侵入リスクについて発表されていました。今まで経験や予想で語っていたことが数値で語られ、新たな視点が得られること

が新鮮でした。

農場でも生産成績や衛生検査などを数字で検証することは既に取り組みられていると思います。これからは、暑熱対策を含めた各種課題の解決に向けて、今まで蓄積されている経験に、環境データ・生産成績データ等を総合的に解析したデータを加えることで、更なる生産性の向上へのヒントを効率的に得ていけるとと思います。

以上